

アリーナ建設・賛成多数 参院選で自公過半数割る

山本左近の活動はこちら



H.P. YouTube Twitter Facebook Instagram

《住民投票》アリーナ建設賛成が上回る

参議院議員選挙の投票日7月20日は、豊橋では、市政119年で初の住民投票の投票日でもありました。「多目的屋内施設及び豊橋公園東側エリア整備・運営事業」（アリーナ建設を含む）の継続に『賛成か』『反対か』を問う住民投票。市民の関心も高く投票率は65%を超え、結果は、賛成106、157票、反対81、654票で、**賛成が反対を上回りました**。今回、アリーナ建設を通じて豊橋の新たな未来をつくる決断をした市民の皆さんの判断は、豊橋の歴史を大きく動かし、後世に語り継がれる物語の最初の1ページとなります。これから、豊橋の可能性を最大限に広げ、明るい未来をつくるために「何をすべきか」、賛成・反対という立場を越えて話し合い、一体となって取り組んでいくことが重要です。

アリーナは、スポーツや文化、エンターテインメント、防災など幅広い機能をもつ拠点として、豊橋市民の新たなアイデンティティを形成し、自己実現の機会

を提供するものです。多様性を尊重しながら、地域全体が一体となり活性化する拠点にもなります。これこそ、私たちが描く**未来の豊橋の「希望の光」**ではないでしょうか。若者と市民に新しい夢と誇りを。そして、その夢が豊橋から世界へと羽ばたく未来を期待しています。

ここ数ヶ月、市民の皆さんがアリーナ建設の是非について考え議論をする様子は、まさに本来あるべき「民主主義」の姿を実感する日々でした。他方で、残念ながら互いの意見を交換する議論を超えて、相手を非難・誹謗中傷する言葉も見受けられました。特に、SNS等により、特定の個人に対する誹謗中傷がなされることによる影響は大変大きく、相手の人権や尊厳を大きく傷つけることになりました。それぞれが発言に責任を持つことが、成熟した民主主義を構築する第一歩だと考えています。

《参議院選挙の結果を受けて》

今回の参議院選挙では自民党（39）公明党（8）で47議席。目標の50議席を下回り、非改選75議席と合わせ、与党で過半数を割る結果に。衆参と

も、いわゆる少数与党での難しい国会運営が行われることになりました。

選挙は、国民の皆さまからの審判です。結果を重く受け止める必要があります。多くの仲間を失ったこの結果を受けて、石破総裁や森山幹事長から選挙直後の時点において自らの進退を含めた責任の取り方に関して発言が聞かれなかった事は大変残念なことです。

衆議院選挙、東京都議会選挙、そして、この参議院選挙と、3つの選挙で目標とする議席を確保できなかったにもかかわらず、総裁としての責任を先延ばしにしてきたことについては党内からの批判も大きく、今後、両院議員総会の開催など新たな動きがあることでしよう。

国内外の情勢が大きく変動するなか、**日本が世界から、愛され、信頼され、尊敬される国になるように**、将来を生きる子どもたち、その先の世代すべての子どもたちが、**日本人に生まれてよかったと思える国づくり**に向けて、今できることに全力を注いでまいります。

山本左近

不屈の
三河武士

《やまもと・さこん》

愛知県豊橋市出身。1982年7月9日生まれ。43歳。豊橋南高校卒業、南山大学。11歳、レーシングキャリアスタート。19歳、単身渡欧。24歳、当時日本人最年少F1ドライバーデビュー。30歳、帰国後、医療介護福祉の世界に。医療法人・社会福祉法人さわらびグループの統括本部長就任。2019年第25回参議院議員通常選挙（比例代表）に自民党公認で立候補し、落選。2021年第49回衆議院議員総選挙（東海ブロック比例代表）に自民党公認で立候補し初当選。当選直後から、合成燃料の国産化の必要性を訴え、3年以内に日本初の実証プラントの稼働を実現した。また、2022年8月、初当選後一年に満たない中、文部科学大臣政務官兼復興大臣政務官に異例の抜擢。科学技術・文化の担務を中心に活躍。2024年第50回衆議院議員総選挙に自民党比例代表で2期目に立候補するも落選し現在に至る。英語、スペイン語を話すマルチリンガル。

住民投票の結果



■ 賛成 ■ 反対

賛成：106,157（56％）

反対：81,654（44％）

投票率：65.6％

新アリーナを求める会Neo代表
小林佳雄氏
賛成多数の開票を受けて

《参議院選挙後の動き》

現在、自民党の内部からも首相に対する疑問の声が上がっている。
今後、退陣を求める声が増すと見られているが、そのためにはまず「**両院議員総会**」の開催が必要となる。似たものとして、両院議員懇談会があるので、以下に違いを。

両院議員総会

自民党国会議員の3分の1以上の要求で開催
会長は7日以内に招集すべきものとする

両院議員懇談会

幹事長が開催日などを決定
両院議員総会のような議決権はなく
あくまで議論を交わす場

ガス抜き
と言われる
所以

昨年の衆院選後には、「両院議員懇談会」が開催された。多くの議員から2000万円問題の検証や党改革への提言があったと聞いている。落選議員から声を聞く場もあり、後日「回答する」との返答があったものの、その回答はいまだなされていない。解党的出直しは一体どこへ行ったのか。単なる意見の表明の場にとどまらせない「両院議員総会」の開催が必要だと考える。

党則 第2章執行機関 第1節 総裁及び副総裁

第4条 本党に総裁を置く

第6条 総裁は別に定める総裁公選規約により公選する。

2 総裁が任期中に欠けた場合には、原則として前項の規定により後任の総裁を構成する。ただし、特に緊急を要するときは、党大会に変わる両院議員総会において、その後任を選任することができる

4 総裁の任期満了前に党所属の国会議員及び都道府県支部連合会代表各1名の総数の過半数の要求があった時は、総裁が任期中に欠けた場合の総裁を公選する選挙の例により、総裁の選挙を行う。